2025年12月9日
CrestecBio株式会社

脳と臓器を護る高分子医薬の創薬を目指すCrestecBio、シードラウンド1st closeで1.5億円の資金調達を実施

虚血性脳卒中に対する神経保護薬CTB211の臨床試験に向けた準備を加速

脳と臓器を護る高分子医薬（※1）の創薬を目指すCrestecBio株式会社（本社：茨城県つくば市、代表取締役/CEO 丸島 愛樹）は、シードラウンドの1st closeとして、総額1.5億円の資金調達を実施いたしました。本ラウンドでは、UntroD Capital Japan株式会社が運営する「リアルテックファンド4号投資事業有限責任組合」を引受先とした第三者割当増資を実施しました。

なお当社は、2026年3月末までを目処としたシードラウンド2nd closeによる追加の資金調達を予定しており、事業開発のさらなる加速を目指します。

CrestecBioは筑波大学で研究された高分子医薬を医薬品として開発するために、2021年12月に創業した筑波大学発ベンチャー企業です。虚血性脳卒中に対する神経保護薬の開発を中心に、候補化合物と疾患パイプラインの拡大を進めてきました。

今回の資金調達により、当社の事業開発パイプラインにおいて先行している虚血性脳卒中に対する神経保護薬「CTB211」の臨床試験開始に向け、非臨床試験および治験薬の製造準備等を加速させて参ります。

（※1）高分子医薬：ミセルを形成することにより粒子様の形態をとる高分子ポリマーによる医薬品。ポリマーの持つミセル形成能によって10～100nmの粒子となることで、血中滞留性、組織滞留性、安全性が向上し、効率よく活性酸素種（ROS）を除去する。さらには化学構造の工夫により特定の臓器や細胞へのターゲティングも可能となる。

＜虚血性脳卒中に対する神経保護薬CTB211について＞

脳卒中は、日本では年間30万人、アメリカでは年間80万人の方が発症しているといわれ、日本人の死因第3位で、世界では第2位の死因となっています。

現在、虚血性脳卒中に対する再開通治療（血栓回収療法）は、有効性の高い治療法として、2015年から急速に普及しています。しかし、患者の転帰を改善させる有効性の高い治療法ではあるものの、この治療法を受けた患者さんの50%以上は、依然として要支援・要介護または寝たきり・死亡に至るなど、転帰不良であるという大きな課題が残されています。

再開通治療（血栓回収療法）が十分な効果を得られない主な原因は、再開通後に生じる活性酸素種（ROS）による脳虚血再灌流障害と考えられ、これらは脳梗塞・脳浮腫の増悪、頭蓋内出血を引き起こしていますが、現時点で有効性が認められ、国に認可された治療薬はありません。

CTB211は、粒径20～30 nmのミセル構造の高分子であり、活性酸素種（ROS）を消去することで神経細胞を保護する効果が期待されており、また非臨床試験でも有効性が確認されています。当社の高分子医薬は、病巣・組織・細胞内で高い薬効持続性と安全性を有し、「脳と臓器を護る高分子医薬」医薬品として、虚血性脳卒中のみならず幅広い疾患への応用ポテンシャルを秘めています。

＜CrestecBio株式会社　概要＞

本社:　茨城県つくば市吾妻二丁目5番地1
代表者:　丸島 愛樹
設立:　2021年12月

＜本件に関するお問い合わせ＞

CrestecBio株式会社　研究開発部
E-mail:contact@crestecbio.com
HP:https://crestecbio.com